

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立長等小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度の学力調査では、全国・県の平均正答率と比較してみると、国語・算数ともにすべての領域で良好な結果でした。特に国語B「書くこと」の領域では、高い正答率となりました。また、質問紙による調査結果もすべての領域で良好な結果でした。子どもの基本的な生活・学習習慣が定着しており、自尊感情が高く、物事を最後までやり遂げようとする姿が分かる結果となりました。

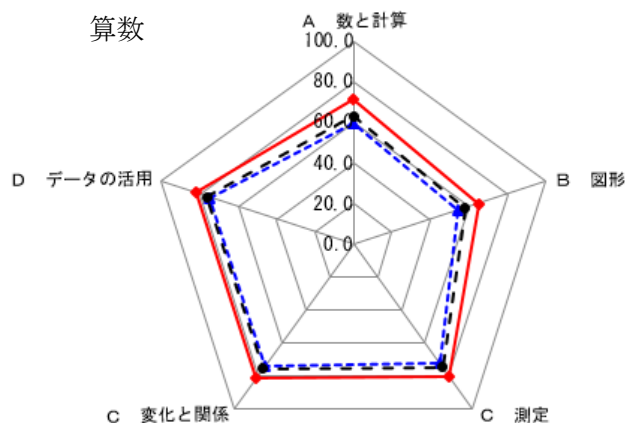
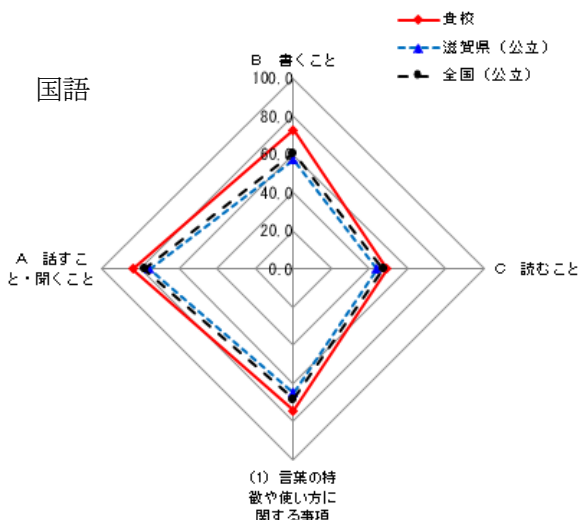
《強み・弱み》

国語科では、ノートやプリントに本文を要約したり自分の考えをまとめたりする学習に取り組んでいることが、B「書くこと」の領域での強みにつながっていると考えます。また、質問紙による調査では、「国語の学習が大切だ」と回答した子どもは、全国平均より11.7ポイント、算数は10.3ポイント高く、日々の学習を大切に考えている子どもの姿も強みです。しかし、学級の友達と話し合う活動では、「相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている」と回答した子どもは全国平均より18.2ポイント高い結果ではあるものの、日々の学習では、子どもの考えがつながり、共に学び合いながら深い学びにまで到達できていない場面もあり、本校の弱みであると考えます。

◇学習指導要領の内容の平均正答率の状況◇

※本校の傾向を見るためのものであり、他校と比較できるものではありません。

(文部科学省からのデータをそのまま掲載しているため、長等小の部分は貴校と表示されています。)



【指導の充実に向けて】

- ・教科学習では、学習内容と日常の事物・事象を関連づけて考える活動の充実努めたり、具体物を用いて、実際に確認する活動を取り入れたりしながら、学習の有用感がさらに感じられる指導を目指します。
- ・子どもの考えがつながる場面を「おたずね」の場面と位置づけ、校内研究でその実態を明らかにし、「おたずね」を充実することで深い学びへとつなげていきます。